

保護者様

丹波市立崇広小学校長 堀 博文

学校評価アンケートのお礼と結果

余寒のみぎり、保護者の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は本校教育にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

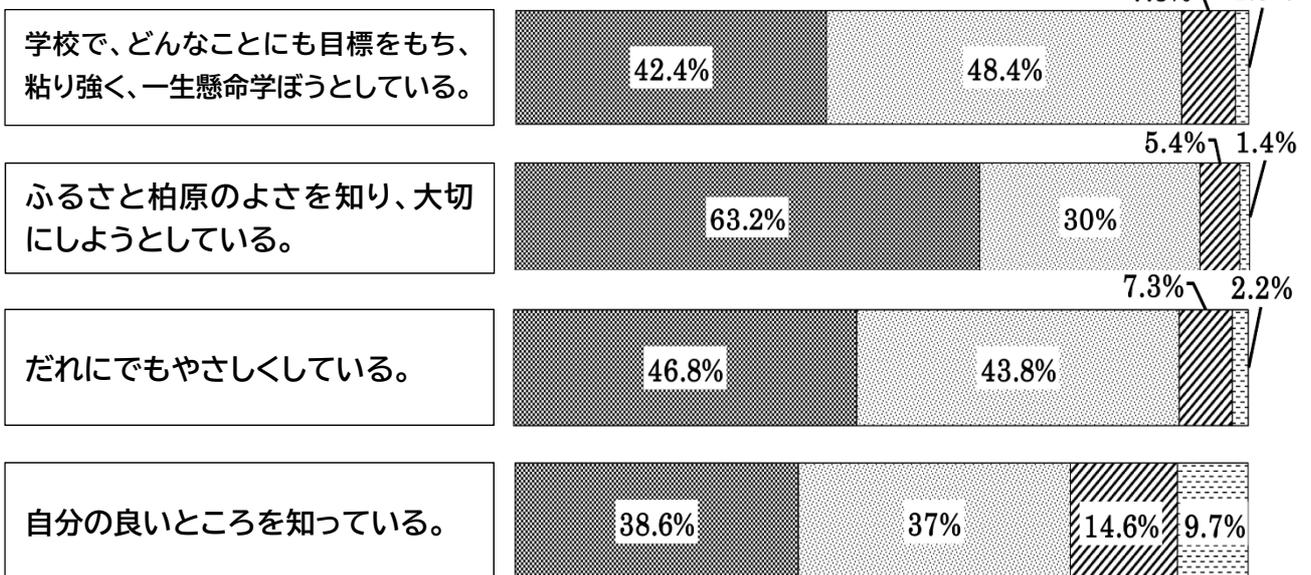
さて、12月に学校教育目標「ふるさとを愛し自ら学び続ける心優しい崇広っ子の育成 ～学校・家庭・地域、みんなで子どもを育てる学校づくり～」に基づいた学校評価アンケートを、さくらメールを使って実施しましたところ、お忙しい中多くの皆様にご協力いただき、ありがとうございました。

保護者のアンケートと同じような観点で、児童アンケートについても実施しました。特筆すべき点について2つのアンケートの結果と今後の対応の方向性をまとめましたので、どうぞご覧ください。また、このアンケート結果を、来年度以降の指導や家庭との連携に役立てていきたいと考えています。保護者の皆様におかれましても、今回のアンケートで、お子さんの現状や関わり方について振り返っていただく機会となれば幸いです。

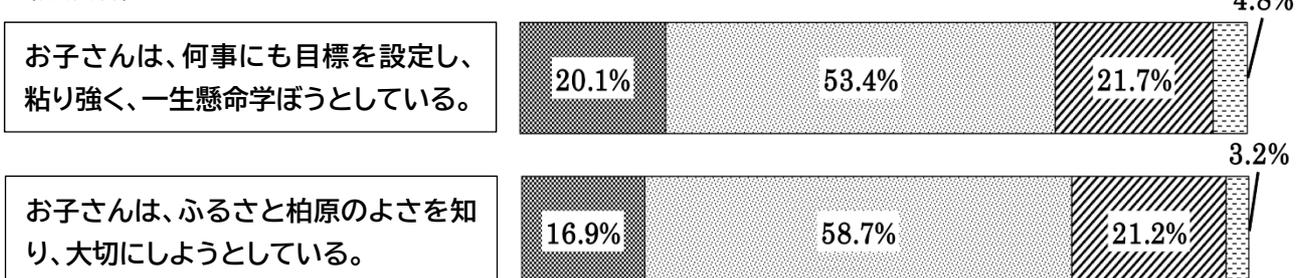
【学校教育目標に関する設問について】

■ そう思う ▨ どちらかと言えばそう思う ▩ どちらかと言えばそう思わない □ そう思わない

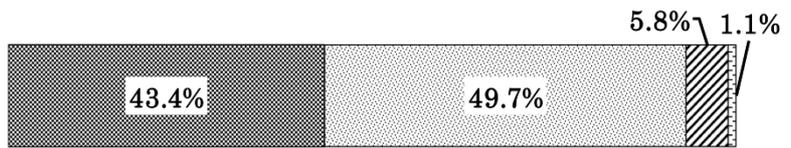
(児童)



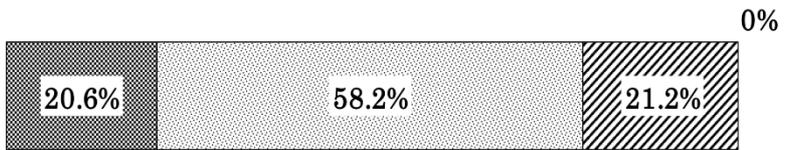
(保護者)



お子さんは、誰に対してもやさしく接している。



お子さんは、自分で自分の良さや長所を知っている。



〈現状〉

児童一人ひとりが目標をもち、粘り強く学びに向かおうとする姿勢が日頃の学校生活での姿勢から見られます。その一方で、受け身な姿勢の児童も見られます。

学校評価アンケート項目「誰に対しても優しくできている」の回答結果の割合が高いです。教職員は、一人ひとりの違いを認め、周りの人を大切にすることの指導や自尊感情を高めるようなそれぞれの児童に合った工夫を日々心がけています。また、本年度より、タブレットに入っているロイロノートを用いて、友だちや家族等に「ありがとう」を伝える『ありがとうカード』を学校全体として取り組んでおり、友だちの記入した「ありがとう」が自分に届くようになっていきます。人に感謝する気持ちや自尊感情を高めるきっかけになっていると考えられます。一方で、自尊感情が低い児童の現状も見られます。

生活科や社会科、総合的な学習の時間において、地域の方々の協力を得て教えていただく機会も多く、学校と地域の連携も充実しており、「ふるさと柏原」を大切にしようと感じている児童の割合は、昨年度より高まっています。

〈今後の対応について〉

粘り強く学びに向かう姿勢が見られる一方で、受け身な姿も見られるため、そのような実態を教職員で共通理解し、今後も児童が自ら考えて判断し、行動していく力を伸ばせるよう、一人ひとりに合った学習環境づくりに積極的に取り組んでいきます。現在、校内研修で取り組んでいる自由進度学習の学び方は、学校生活の様々な場面において、児童が主体的に、粘り強く、自ら判断して行動できる姿勢を高めることにも繋がると考えます。そのため、教職員の実践やその成果と課題を密に交流し、児童がより主体性に、且つ、粘り強く学習に取り組めるように研修等を進めてまいります。

児童一人ひとりの自尊感情をより高めていくためにも、ロイロノートを活用した「ありがとうカード」の取組や「いいところ見つけ」を通して友だちから温かい言葉を得ていくことを継続しながら、道徳の時間等に自分の行動を振り返って自分の頑張りや自分の良さに気づく機会を増やしていきたいと考えています。また、教職員も児童の様子を多面的に把握し、様々な場面において一人ひとりの姿を価値づけていくことや自分の良さに気づける、自信をもたせる工夫等、今後とも意識して取り組んでいきます。

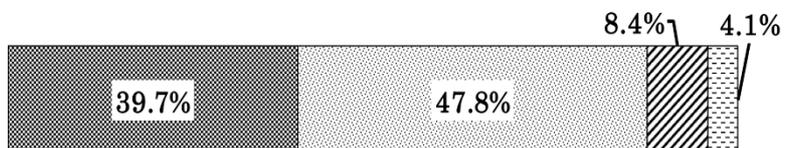
ふるさとの良さをより児童が感じられるように、教職員自身も研修を行いながら地域を知ること努め、地域とも連携をとりながら、児童の学びに還元できるようにしていきたいと考えています。

【子どもたちの学びに関する設問について】

■ そう思う □ どちらかと言えばそう思う 〃 どちらかと言えばそう思わない ㊦ そう思わない

(児童)

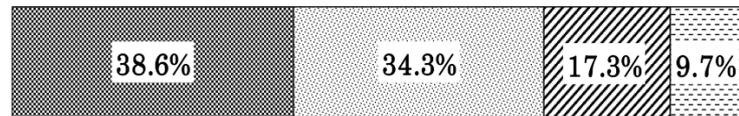
分らないことや詳しく知りたいことがあった時、自分で学び方を考え、工夫しようとしている。



友だちの考えを聞いたり、友だちの考えを基に考えたりすることは楽しい。

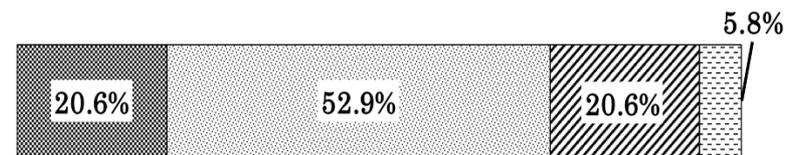


自ら進んで、家庭学習（チャレノ、読書、調べ学習など）に取り組んでいる。

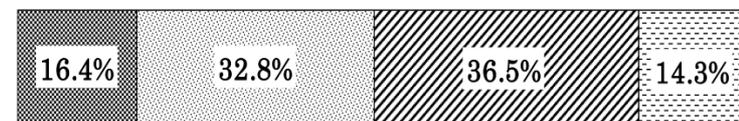


(保護者)

お子さんは、家庭学習について、分からない時も自分やお家の方を頼って、粘り強く学習に取り組もうとしている。



お子さんは、学校の宿題以外のこと(チャレノや読書、調べ学習など)について、興味をもって取り組んでいる。



※自主学習（チャレンジノート）は、3年生以上から指導がされています（3年生は3学期から）。

〈現状〉

分からないことや詳しく知りたいことがあった際、自分で学び方を考えたり、友だちを頼ったりしながら前向きな姿勢で学習に取り組んでいると感じている児童の割合が昨年度よりも高くなっています。また、友だちと協働的に学ぶことに楽しさを感じている児童の割合も高かったです。本年度は、校内研修で取り組んでいる自由進度学習に向けて、各学年で「1年間で目指す自走像」を具体的に検討しました。また、児童の学習場面を「見通し」、「実行」、「振り返り」の3つの項目に分け、それらの各場面における目指す児童の姿やその姿に向かうための環境づくりや手立ての工夫について、教職員で出し合って整理しました。その結果、「目指す自走像」をイメージした授業づくりに取り組む教職員の意識が高まっている様子も伺えます。それが、児童の学ぶ姿勢の変化に繋がっていると考えられます。

家庭学習の宿題に関して、分からない時も自分やお家の方を頼って学習しようとする様子が保護者のアンケートの結果から伺えます。しかし、児童が考えるほどには、粘り強く一生懸命学習に取り組んでいるとは考えておられない様子も見受けられます。さらに、宿題以外の学習（自主学習、読書、調べ学習等）について、主体的に取り組んでいるという肯定的な回答の割合は、保護者、児童ともに他の項目より課題が見られます。自主的な学習は大変だと考えている児童が多く、自分のプラスになるものだと捉えられている児童が少ないからだと思います。

〈今後の対応について〉

今後も、児童自ら考え、自ら学び、自ら動く力を育てるための授業や環境づくりを教職員同士で実践を交流しながら取り組んでいきます。その際、児童の実態に合わせて取り組むことが重要であると考えするため、教職員が児童一人ひとりの丁寧な実態把握、児童の学びの姿を見取る力、それらをもとにした個に合った学びを提供する（工夫する）授業・環境づくりについて、今後とも研修を通して、教職員同士で高めていき、児童の主体的な学びに向かう力を積み上げていきたいと考えています。

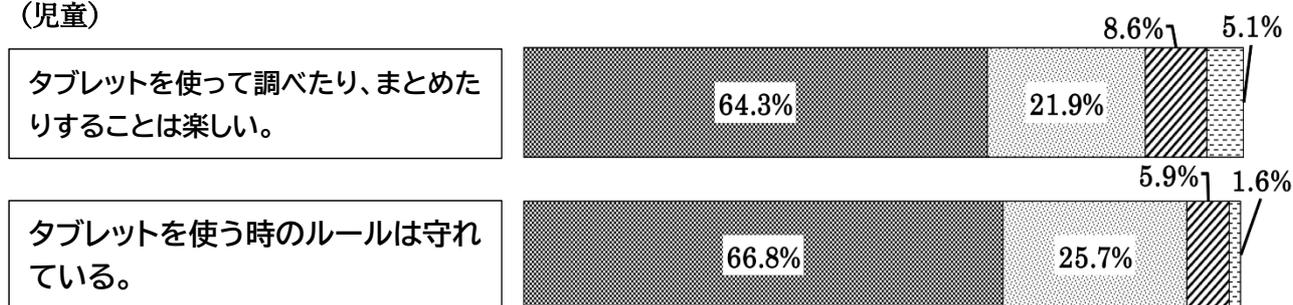
家庭学習の特に自主的に学習する姿に昨年度と同様課題が見られます。家庭学習でも自走する力を育てるためにはどうすればよいか、自主学習（チャレンジ）ノートの効果的な活用方法を含め、家庭学習に

についても方法や内容、手引きの作成等について、教職員間で再検討し、家庭学習を充実させていきたいと考えています。普段の学習の予習復習に加え、自分の興味あることへの調べ学習に取り組ませる等、自分にとって必要、且つ、効果的な学習になるよう指導していきます。チャレンジノートを丁寧にまとめている児童や自主学習が習慣となっている児童を褒めたり、評価したりして自主学習を価値づける活動を継続していきます。家庭学習を含めて、児童が主体的に学びに向かう姿、教職員の子どもたち一人ひとりに合った授業・環境づくりの力をより高めていくためにも、本年度の児童の実態を共有しながら、より具体的な在り方を今後も検討していきたいと考えています。

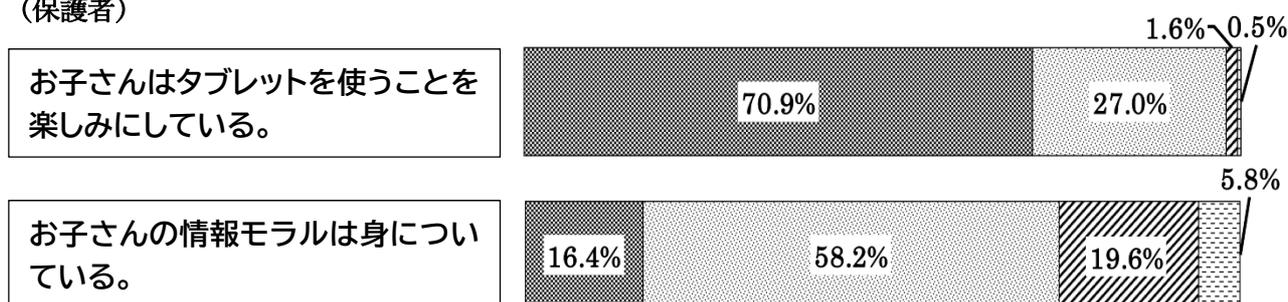
【情報教育に関する設問について】

■ そう思う □ どちらかと言えばそう思う 〰 どちらかと言えばそう思わない 〇 そう思わない

(児童)



(保護者)



〈現状〉

本年度より、新タブレットが配布され、教職員は新たな機能を研修で共通理解しながら授業等で積極的に活用しています。児童も楽しみながら活用できている様子が見られます。授業では、デジタル教科書で、積極的に教材提示をしてタブレットを活用しています。また、タイピングにおいても、隙間時間を活用して練習に励んでおり、タイピングスキルも学年が上がるごとに確実に向上しています。「タブレットを積極的に活用できている」という項目の質問に肯定的な回答をする児童の割合が昨年度より高かったです。また、タブレット等を用いて、「調べたり、まとめたりすることは楽しい」という質問に対しても、肯定的な回答をする児童の割合が高く見られます。しかし、タブレットを活用することに関するルールが守られていない場面が見られる現状があります。児童の「タブレットを使う時のルールは守れている」の項目の質問に肯定的な回答をした児童の割合は高かったが、保護者の「情報モラルは身についている」の項目の質問に対する回答には、課題が見られます。

〈今後の活用について〉

今後も学習を進める上で、タブレットを用いて児童が効果的に学べる環境を整え、情報活用能力や発信力がより高まることに繋がる指導ができるよう、教職員間でこまめな交流や研修を行っていききたいと

考えています。

児童の認識としては、使用ルールを守っている意識はありますが、実際の使用の仕方や情報モラルには課題が見られます。タブレットを“有効に活用”する方法を引き続き検討しながら、児童のタブレット使用の現状を教職員で共通理解し、タブレットの使用ルールを再度見直しながら、児童に再度周知していきます。児童のモラル意識については、各学年の道徳のカリキュラム内に情報モラルの学習を位置づけ、低学年から段階的な情報モラル指導を継続的に行い、情報モラル意識を高めようとしています。児童の実態に合わせて再度見直しながら、より便利になっていく現状の中で、新たな課題には反応してすぐに対応し、指導できるようにしていくことが今後も大切であると考えています。また、その課題を学習すべき内容として必要に応じて取り入れていくことや未然に防止できることを教職員で話し合い、意識して指導していくことを進めていきます。